

寺田接骨院だより

寺田接骨院 ☎55-0876 寺田鍼灸院(予約専用) ☎53-8761 〒610-0121 城陽市寺田植尻48

近鉄寺田駅西側商店街内動物病院隣「十両」様前*ホームページは城陽市寺田接骨院で⇒[検索](#)

首、肩、うで、腰、膝、足等の治療は当院に遠慮なくご相談ください!!

こんにちは、「寺接だより 4月号」です。あたたかいところでは“桜の開花”もはじまり、若草の萌え出す季節になりました。穏やかな陽光を浴びて、草花が咲きほころぶ春爛漫を全身で楽しみたいものですね。

さて、今月は足と足趾(あしゆび、そくし)の重要性についてお話します。

私が国家免許を修得して間もない頃、患者様の治療を終え身体も良くなったのに、何故?すぐにまた元に戻るのだろう?そんな疑問を解決できた1つの方法として身体の土台となる足の理論に出会いました。その理論とは、身体を“家”に例え、“足(趾)”を家の“基礎部分”とし、基礎の上の“家”の部分、足より上の“身体”とし、柱を骨格、壁を筋肉とした考え方をしています。ですから、基礎(土台)が傾くとおのずとその上の身体も傾きバランスを崩すと言う考え方は、では、どのような足が良い足なのでしょう? **足・を含む足裏から見てみますと、足・は良くとらき(パー)中足・関節を中心に地面を踏み(グー)、縦アーチが有り...**とその他いくつかの条件を満たしている状態なのです。では、気を着けるほうがよい足の状態は、趾を含む足裏から見ていくと、趾(ゆび)上げ足の反り足様、かぎ爪足様、趾が縮こまったままの趾上げ歩き、外反内反方向の趾など、複合しているものや個々バランスを崩している足です。そして損傷を受け易いのは「**過剰な衝撃**」、「**前後、左右のアンバランス**」、「**ねじれのアンバランス**」等です。『ねじれのアンバランス』では、趾から見ると、親趾を“支点”に中足関節に“作用点”、足関節より上が“反作用点”になり足首を含む足と足趾が「ねじれる」事により負担と損傷を与えていると考えられています。その影響でバランスを取る為、支点を変化させたりし、**足、足趾、足裏の不安定を次に脛(すね)が負担を受け、膝がねじれ、そのバランスを取ろうと股関節がねじれ、またそのバランスを取ろうと腰に次は背中そして肩、首と、個別にまたは全身に影響されると考えられます。** 次号につづく○

4月

「東京ディズニーランド」がオープンした日

日本を代表する“テーマパーク”といえば『東京ディズニーランド』を思い浮かべる人も多いと思いますが、今から27年前の1983年(昭和58年)“4月15日”は、この『東京ディズニーランド』がオープンした日です。



そもそも『東京ディズニーランド』の計画は、当時、京成電鉄の社長だった“**川崎千春氏**”が、1958年(昭和33年)に行ったアメリカで『ディズニーランド』に出会ったことから始まります。川崎さんは夢のような世界が開かれていることに驚き、「こんな世界を日本の子供たちにも見せてやりたい!」という夢を抱いて帰国しますが、当初は建設する土地もなく、計画は遠大な夢でした。そして、その後、川崎さんの部下だった“**高橋政知氏**”が、ディズニーランドを現実のものにしようと尽力します。高橋さんは建設予定地の千葉県浦安市の漁民たちとの交渉を始めますが、交渉は難航します。しかし、高橋さんは粘り強く漁民の家を訪ねて地道な交渉を行い、無事決着することになりました。それから千葉県やアメリカのディズニー社との交渉でも一悶着ありましたが、1983年3月、ついに「東京ディズニーランド竣工式」までこぎ着けることができます。そして、オープンの4月15日には2万6,000人ももの入園客を迎えて「グランドオープニングセレモニー」が開催されました。

『東京ディズニーランド』のオープンは、川崎さんがアメリカで初めて『ディズニーランド』というものに出会ってから、実に“25年”の歳月が経過していました。オープン当日、川崎さんは長年の夢が叶った喜びを隠すことができず涙ぐんでいたそうです。そして、それを見ていた高橋さんも感激の面持ちだったようです。



今や『東京ディズニーランド』『東京ディズニーシー』には年間約2,500万人が来場し、1983年のオープンから2006年11月までの累計来場者数は**4億人**を突破、日本のみならず世界のテーマパークの中でもトップクラスの来場者数となっています。